



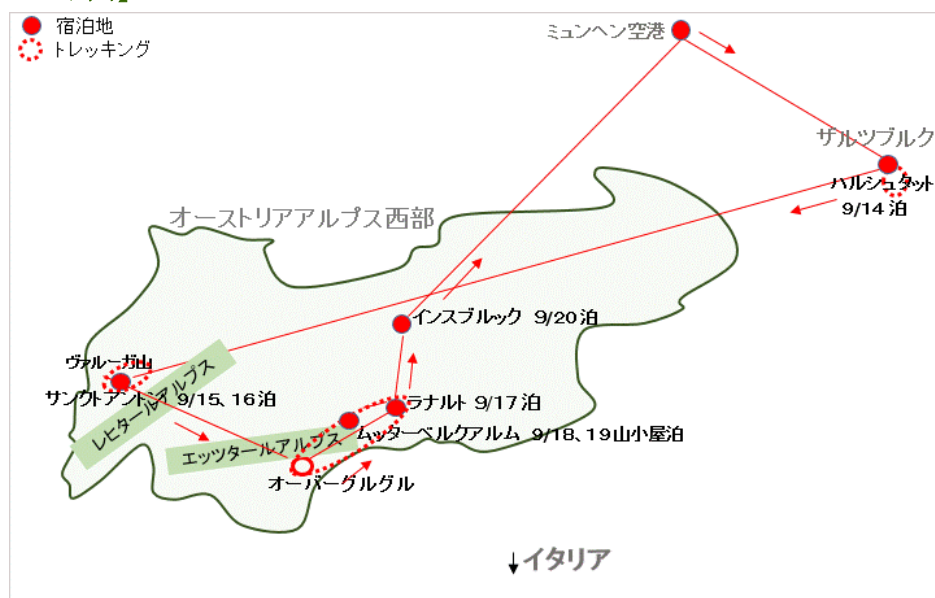
山行報告



- 日 程：9月13日(木)～22日(土)
- 参加者：L三木(悦) SL大谷 香川 河合 瀧原 田羅間 待場 村上
- 行動記録：
 - (13日) JR姫路9:03発-新神戸-新大阪-JR東京-成田空港17:25発
 - (14日) バンコク経由14日・ミュンヘン空港(7:05着)8:00発-専用車でザルツカンマーグート(11:40着)12:00発-ハルシュタット散策(13:30着・昼食)13:40発-ケーブルカー-塩坑見学(14:00～17:00)-ケーブルカー-ホテル(17:30着)18:00発-湖岸のレストラン・夕食-ホテル(20:00着)
 - (15日) ホテル8:30発-ハルシュタット散策-専用車でロープウェイ乗り場(9:40着)-ファイブ・フィンガーズ展望台(10:30着)11:00発-ロープウェイ中間駅-大氷穴散策(昼食・12:00～13:40)-ロープウェイ下山-専用車14:00発-サントアントン・ホテル(18:00着)
 - (16日) ホテル8:50発-ナッセーラインバーン-登山口(9:05着)9:15発-プッツェンアルム小屋1726m(10:35着)10:50発-見晴台(11:20着)11:35発-2080m付近の小屋(12:20着・昼食)13:50発-ナッセーラインバーン-登山口(15:30着)15:35発-ホテル(15:50着)
 - (17日) ホテル8:35発-ロープウェイ乗り場(8:55着)9:00発-ヴァルーガ山(9:50着)10:10発-中間駅(10:40着・散策)11:55発-ホテル(12:15着・昼食)13:10発-インスブルック・ホテル(14:20着)15:05発-シュトゥーバイタール・グラバ滝(16:20着)17:05発-ノイシュティフト・ホテル(17:30着)

- (18日) ペンション8:45発～ムッターベルクアルム(9:25着)9:40発～ロープウェイトップオブチロル展望台(10:25着)10:35発～中間駅・ドレスナー小屋(11:00着)11:15発～グローサー・トロエグラール山頂(14:00着)14:40発～スルツェナウ小屋(17:00着)
- (19日) スルツェナウ小屋8:30発～衣類調整(9:10着)9:15発～ブルーレイク湖(9:55着)10:10発～分岐休憩(10:35着)10:45発～マイヤー・シュピツェ山頂(11:55着)12:10発～山頂下(12:15着・昼食)13:00発～休憩(14:15着)14:25発～ヌルベルガー小屋(14:45着)
- (20日) スルベルガー小屋8:45発～牧草地(10:25着)10:45発～ラナルト・バス停(11:40着・昼食)12:45発～公共バスインスブルック(13:47着)
- (21日) ホテル9:00発～ミュンヘン空港(11:45着)14:25発～22日・バンコク(6:05着)8:25発～関西国際空港(15:55着)

【行程ルート図】



♣♣ 14日ミュンヘン空港～ザルツカンマーグートへ

大谷

台風による関空閉鎖という前代未聞の事態。しかし、何とか成田空港からの便の手配ができ、新幹線～成田エクスプレスを乗り継いで、予定どおり決行。

バンコク経由ミュンヘン空港到着。現地ガイドの澤山さんとは4年ぶりの再会、なつかしい！

生憎の雨模様のなか、専用車でザルツカンマーグートへ。車窓には、広々とした田園風景が広がり牛が放牧されている。樹林帯の端を通り抜けて、4時間近くかかって美しい湖畔の町ハルシュタットに到着。お天気が悪いので予定を変更して、1日目のオーバートラウンへは明日行く事に・・・。



湖畔を少し散策してから、世界最古の岩塩鉱山の塩坑で、現在もまだ一部操業中のハルシュタット塩坑見学ツアーに参加。説明書には、「紀元前1,000～500年ごろ、ハルシュタットの裏山に眠っていた豊富な岩塩を求めて移住してきたといわれる

ケルト民族によって残された文化で、調味料や薬として使用されている塩は、私たちの歴史的産物

です。塩製造会社 Salinen Austria は、ここザルツカンマーグートで年間約百万トンの塩を製造しています」と、ある。

ケーブルカーの山上駅 15 分程山道を上ると塩坑の建物。そこで、服の上からダボダボの作業着を着て、ガイドと共に坑内奥深くへ、途中で木製のすべり台を 2ヶ所すべり下り、塩坑の歴史を聞きながら、見学。この谷底に落ちるような長いすべり台はスリル満点！！子供の頃以来の経験。また、新たな発見のはじまりだ。

♣♣ 15 日世界遺産の街・スリル満点の展望台・大氷穴を観光 香川



昨日は小雨の為、予定していた観光が今日に変更になりました。ホテルから歩いて、世界の湖畔でもっとも美しい街ハルシュタットを散策。湖の端にある小さな町、深い緑のなかに沈み込む小さな家々と湖が、おとぎの国のようでした。

それからロープウェイを乗り継ぎいきいきにクリッペンシュタイン山頂駅(2109m)へ。広大な山塊を眺めながらハイキング。

サブザックなので足取りも軽やかです。少し下った所に崖っぶちから空中に伸びるスリル満点の展望橋ファイブ・フィンガーズがあり、ハルシュタット周辺の絶景を楽しみました。中間駅まで、ロープウェイで下り、坂道を 15 分ほど上がった所に入口がある大氷穴を見学しました。ライトアップされた氷の塊が次々に現れ冒険気分ワクワク！氷穴を出て山小屋のテラスで、ジャガイモのスープとパンの昼食を摂り、またロープウェイで下り専用車で次の宿泊地サント・アントンへ向かいました

♣♣ 16 日ブルーベリーの食べ放題を楽しむ

河合

綺麗な花がベランダに咲き誇る、夢のある街サント・アントンの夏。人々はトレッキングを楽しんでいる。私達も地図にコースをマークして、ナッセーラインバーンのロープウェイ横を 9 時過ぎに出発。森の中を歩き牛舎のある綺麗なブツェンアルム小屋(1726m)に着く。

途中、日本では見られない狩人の小屋が木に架かっていた。見晴台(1940m)までくると展望は素晴らしく、聖ジャコブ方面や彼方に聳え立つ岩峰が見える。ここでびっくりしたのは、紅葉したブルーベリーが足元一面に自生していて、食べ頃なので長めの休憩をとり楽しむ。

2080m 付近で、放牧のためかバス停のような小屋があり、ここで食事会を開く。メニューは本格カレー、野菜サラダ、テルモスが活躍する。

小屋の横を降りて来る登山者との交流も楽しく賑やかだ。チロルの風景を眺めながら 1 時間余りにわたる至福の時間をコーヒーで締める。

ここからは 90 分余りの下りが続き 3 時半に下山する。

恵まれた環境、歩き易い登山道、爽やかな風を感じながら現地の豊かな余暇の過ごし方を感じる。



♣♣ 17日サンクト・アントン、ヴァルーガ山をゆったり楽しむ 瀧原

ホテルから15分ほど歩いてロープウェイ乗り場へ行くと、もう多くの人々が並んでいる。中間駅(2082m)を過ぎさらに上の展望台(2650m)へ。ここから4人乗りの小さなロープウェイに乗り換えてヴァルーガ山(2811m)の頂上へ。頂上はガスっていたけどしばらくすると晴れてきてレヒタールアルプスの山々が眺められた。一面とがった鋭い岩峰の山々が遠くまで重なり、南の方はイタリア、西の方はスイスだ。パノラマを堪能した後、ロープウェイで中間駅まで下りてきて、ゆっくりとアルプスの景色を楽しみながら散策した。

9月だけれど花々も見られた。遊び心のある洗濯はさみ型のベンチもあった。中高年の人たちが大きなベンチにゆったりと寝そべっていた。私たちも寝そべってみた。とても気持ちいい。

ゆっくりゆったり・・・再びロープウェイで下りホテルへ戻る。昼食後、スーツケースと3泊分の荷物を詰めたザックを持って専用車でインスブルックへ。ホテルにスーツケースを置いた後、ザックを持って公共のバスで今日の宿泊地ノイシュティフトへ向かう。途中シュトールバイタル谷のグラワアロムで下車してグラバ滝を見た。勢いよく流れて見事な滝であった。

今日の運賃はホテルから無料券をもらっていてすべて無料。バスではハイキング姿の多くの中高年に出会った。人々と山とのつながりの深さを感じた。

♣♣ 18日360度の素晴らしい展望 田羅間

ペンションを出てバスで終点ムッターベルクアルムまで行き、そこで山岳ガイドのファブリッツオさんと会い、ロープウェイを乗り継ぎトップオブチロル展望台へ。一気に3120mの頂点へ。

最後の階段は空気の薄さに高山病の心配をしつつ登る。素晴らしい絶景。ロープウェイに乗れば一般観光客でも3000mの頂点まで簡単に行くことができる事にビックリ!!中間駅までロープウェイで下り(途中ロープウェイが2~3分だが止まるというアクシデントもあり)縦走スタート。

その地点が2308mとは言えグローサー・トロエグラー2902mに登るには急登で、しかも岩場の連続、あえぎつつ注意しながらであった。山頂に着くとそこは360度の素晴らしい展望であった。眺めながら遅めの昼食。そこからも山岳ガイドの指導、助言のもと岩あり、細い道、ワイヤーロープをつたい厳しい山道を下り、スルツェナウ小屋に17時に着く。

♣♣ 19日マイヤー・シュピッツェ山登頂 待場

スルツェナウ小屋から今日も快晴の中マイヤー・シュピッツェ山頂を目指す。少し肌寒く感じるが清々しい中スタートとなった。昨日からのスルツェナウ氷河を眺めながらトレッキング。ガイドさんから氷河の流れが良くわかる場所など教えてもらった。それを想像するとオーストリアの雄大な自然美に畏怖の念に心を打たれた。



ブルーレイク湖に到着。目の前に広がるスルツェナウ氷河と湖の青々とそして氷河によって形成された山の景色が素晴らしかった。分岐点から2490mの山頂までは後、高御位山くらいの距離かと思っても海外の山は険しさもあって遠く感じたがマイヤー・シュピッツェ山頂に到着。

メンバー皆、満足感がいっぱい思い思いに楽しいひと時を過ごした。岩稜帯を下り小屋が見えて来るが中々辿り着かない。

小屋の裏には雪崩防止の大きな石の石垣が積んであった。スルベルガーの小屋は、ペンションのような建物でお花も綺麗に飾ってあり、山小屋だと思えないほど立派な建物で、夕食は牛肉の煮込み、パン、牛乳や色々な野菜などの入った大き

なお団子の郷土料理をいただいた。

夜中に目が覚めたので夜空を見上げると、手に届きそうな「北斗七星」を見ることが出来た。

オーストリアの山360度のパノラマを展望できたこと、大きな氷河を眺められ心ゆくまで楽しめたことに皆に感謝し、幸せを感じる1日だった。

明日は最終日。オーストリアの雄大な自然美に後ろ髪を引かれるのは私だけではあるまい。

♣♣20日ヌルベルガー小屋(標高2,278m)～インスブルックへ 村上

縦走トレッキング最後の日も抜ける様な青空です。昨夜は眩いばかりの星を見上げる事が出来ましたし朝もゆっくりと朝食を頂いて、今日は標高差980mの下山です。

歩き始めて間なしに放牧されているヤギの群れに出会いました。標高2000mはあるはずで、ただ驚くばかりです。

山が自然の放牧場なのでから……。その中に登山道も整備され、ホテルの様な山小屋が在りました。ラナルトまで下ると牛達の牧場の中を歩きゲートを出ました。針葉樹林の苔むした山道には次から次にキノコが出ています。中には食べられる物も有りました。

公共バス停に着いてからバスの時間まで昼食タイム(山菜おこわと味噌汁)です。まるで絵葉書のような風景の中で、ゆっくりとコーヒーも頂けました。バスに揺られインスブルックに向かう時も小さな村々の点在する美しい風景にうっとり見とれていました。最後の夕食はおいしいギリシャ料理を頂きました。



♣♣21日美しい街インスブルックに別れをつける・・・

三木(悦)

最終宿泊地、チロル州の州都であるインスブルックを数時間楽しんだ後、山々に囲まれた美しい街とガイドの澤山さんに別れをつけミュンヘン空港へと向かった。

海外山行を終えて・・・ヨーロッパアルプスの山行は2010年スイス、2014年イタリアに続き今回はオーストリア・チロル地方の山歩きを計画した。

行程に観光散策も取り入れたい思いから、チロル州から離れているがザルツカンマーゲートの

世界一美しい湖畔ハルシュタットを訪れることにした。目的の山歩きは日帰りにアルペンスキー発祥の地サント・アントン周辺、縦走はシュトゥーバイタール最奥地ムッターベルクアルムの山域で山小屋2泊を取り入れた。少しハードなトレッキングとなったが、2つのピークに立てた時、時差や睡眠不足で少し疲れ気味だったメンバー全員が達成感にあふれた笑顔になっていた。その笑顔はアルプスの景色と同じように輝いていた。チロルの素晴らしい景色と快適な山小屋を仲間と共有できたことに幸せを感じオーストリアの山旅はアツという間に終わった。

写真を整理しながら、今あらためてこの計画を承認してくれた高御位山遊会と数か月に及びメールで何度も相談に応じた澤山さん、10日間一緒に過ごした仲間感謝の気持ちで一杯になった。「Danke schön」





■国見山(465m)宍粟市 ゆっくりリズム山行

- 日 程：9月15日(土)
- 参加者：La 澤田(律) SLa 狩集 小田(昌) 兼澤 田中(美) 田中(由) 三木(勉)
Lb 尾越 SLb 開 貝塚(陽) 黒本 砂川(美) 田中(重) 中村 矢根
- 行動記録：国見の森交流館 9:00 発—金谷登山口(車移動・9:05 着)9:30 発～三角点(10:00 着)10:15 発～山頂(展望台・10:45 着)10:55 発～山頂広場(演奏会・11:10 着)11:40 発～山頂(展望台・11:50 着)11:55 発～モノレール横(12:25 着)12:30 発～国見の森交流館(13:00 着)13:00～昼食準備・昼食 15:00 解散

◆◆ゆっくりリズム山行 国見山に参加して

三木(勉)



久しぶりの山行です。腰が痛く10分程歩くと鈍痛がして山登りは困難でしたが、最近ましになり、ゆっくりリズムの国見山に登ることにしました。

当日は、小雨が降る程度でそう苦にはならなかったが非常に蒸し暑かったです。途中、時折吹く風が涼しく秋を感じたりもしました。雨もやみ、見晴らしも少し見え揖保川沿いに、近くの山々が雲の中より垣間見えました。好天の日は遠く六甲山、瀬戸内海も一望できると

の事です。

下山後交流館で女子手作りのそうめんと、食後の抹茶とお菓子それぞれ美味しくいただきました。

又、近くの山行に参加したいです。参加者の皆様ありがとうございました。

♣♣リーダーより一言

歩行時間は休憩込約3時間の行程でした。

今回は山頂で三木勉さんによる楽器演奏(オカリナ・ハーモニカ・笛)をお願いしました。

懐かしい童謡や懐かしの歌謡曲等演奏していただきました。また、下山後は山めしを楽しみました。

参加女性陣はみなさん、テキパキと調理や御膳の準備等々手なれたもので、手早く準備が整います。これも、レシピの準備をして下さるOさんのお陰と感謝しています。

いつもと異なる山行となりましたが、適度な運動と音楽・美味しい「やまめし」等々楽しい1日となりました。





■若杉原生林を歩く 岡山、鳥取県境の山

- 日 程：9月17日(月・祝)
- 参加者：L 和田 SL 佐々木 乙坂 黒本 砂川(延) 橋本(万) 松下 松本 安田 矢根

- 行動記録：宝殿駅北 7:30 発ー若杉原生林駐車場(9:00 着)9:20 発～分岐①9:35 休憩 0:05～分岐②10:20～分岐③11:00～若杉峠 11:18～展望台(11:20 着)11:45 発～分岐⑤ 12:15～分岐⑥12:40～駐車場(12:50 着)13:00 発・帰路に着く

♣♣若杉原生林森林浴に参加して

松本

朝、家を出る時はドンヨリとした曇り空。天気予報では秋雨前線の影響で現地では雨予報も有る微妙な様相。リーダーからも前日までに何度か現地付近の天気予報連絡を頂いたが雨具の携帯は必須の状況である。

集合場所である山電高砂駅北ロータリー及びJR宝殿駅北口で順次レンタカーに乗車し7:30に出発。参加者は定員10名である。岡山県、鳥取県、兵庫県の県境にある岡山県西粟倉村の若杉原生林に向かう。出発した車の中でリーダーから参加者の割り当てられた山行任務の確認、現地天気は雨予報も有る事から雨具準備の再確認があった。

高速道路を約1時間程度走り現地近くの道の駅で休憩した後、高速道路から一般道を経て若杉原生林駐車場に9:00頃に到着した。上下二段ある舗装された結構広い駐車場である。既に何台かの車が駐車しており何人かの方が駐車場から遊歩道に向かわれていた。現地では雨は降っておらず曇り空。標高が1000m付近であり気温も少し肌寒くてハイキングには絶好とを感じる。駐車場脇には“熊 出没注意！”の看板がいくつか立てられており熊鈴を準備する。



この辺りは熊の生息域となっているようだ。全員が駐車場でストレッチを入念に行い出発する。

散策コースは中国自然歩道と若杉自然研究路を8の字に歩く計画となっている。歩き始めると沢を流れる水音が聞こえてきた。ここは岡山三大河川吉井川の支流、吉野川の源流地域で水量は多目であった。沢を渡る小さな若杉橋を歩いていくと「森林浴の森 日本100選 若杉天然林」と書かれた大きな案内看板が立っている。石畳の道を更に進んで

行くと苔が一面に広がっており遊歩道周りは緑一色である。休憩用のベンチにも苔が…。苔生しているという状態である。第一分岐点を左に折れて沢から離れるとブナの巨木・古木が続く。

巨木の上を見上げると晴れておれば木漏れ日が入り木々の葉と相まって爽快なのだろうが残念ながら空はドンヨリとした鉛色である。夫々の木々には説明書きがされたプレートが掛かっていて読んで分かり易かった。足元には見たこともない色んな大小のキノコが有り足を止めカメラを向けさせる。

また遊歩道には自然学習の為に19ヶ所に渡って解説板が設置されている。第三分岐点を經由し出発して1時間位であろうか、森の中に霧が掛かって来た。進むのに視界としては特に支障は無くただ黙々と歩く。第二分岐点を過ぎた頃だろうか、しばらくするとパラパラと雨が落ちて来た。歩く場所により木々の葉で雨を防いでくれてはいたが先頭を歩くリーダーから「雨具をつけましょう」との指示が出る。急いで上下の雨具を付け再出発するが雨が更に強くなっ

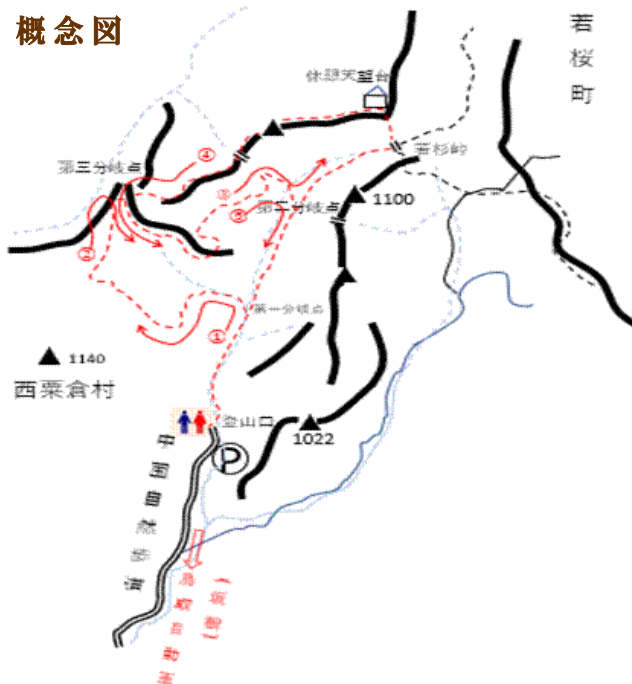
て来る。登り切ったところの若杉峠の近くに展望休憩所があり此処で昼食&休憩とする。晴れていれば氷ノ山、三室山、鉢伏山等々の眺望が望めるのだろうが今日は残念ながら真っ白で何も見えない。昼食休憩の後、雨の中再び散策スタート。途中で雨も上がりムシムシするので雨具の上着を取る。気温は涼しい位だが湿度が高そう。第三分岐点から第二分岐点を経由して歩き続ける。途中の遊歩道は雨の為、滑り易くなっており下りでは木の根っこの露出部分、石畳の苔、木道の苔が滑り易いので要注意であった。第一分岐点から少し歩いて戻った案内看板の前で集合写真を撮り13時過ぎには駐車場に着いた。各自雨具等の整理・片づけをする。高低差も余り無かったのであまり疲労感は無。最後に全員ストレッチを行いレンタカーにて帰路につく。



帰路途中で温泉に寄って汗を流しサッパリ。森林浴と相まって気分爽快である。途中での雨もあったが自然散策で約4時間全員無事に歩け、また標高1000mながら樹林帯の中で展望が望めないコースではあったがゆっくりと森林浴が出来た。時期的に紅葉には少し早かった様だが四季折々の散策でも見どころがあると思う。機会があれば天気の良い日にもう一度歩いてみたい。

最後にリーダー、参加の皆様、お疲れ様でした。楽しい森林浴を有難うございました。

概念図





■豆崎奥山から桶居山縦走

- 日 程：9月24日(月・祝)
- 参加者：L 砂川(延) SL 木村 泉 大野 乙坂 黒本 島谷 清水 谷口 土井 徳本 松下 森下 吉村

- 行動記録：駐車場(8:57 着)9:07 発～豆崎登山口(9:13 着)～豆崎奥山(9:39 着)～休憩(9:55 着)10:08 発～鹿島神社出合(10:35 着)～休憩(10:54 着)11:04 発～鷹巣山(11:31 着)～桶居山分岐(11:41 着)～昼食休憩(12:34 着)13:00 発～桶居山(13:42 着)14:00 発～休憩(14:05 着)15:11 発～休憩(15:25 着)15:32 発～佐土新田「山神社」奥(16:55 着)

♣♣山こえ 岩こえ 岩こえて ～豆崎奥山から桶居山縦走～ 松下

播磨アルプスの名峰、桶居山をめざして総勢13名がS氏案内で曾根駅近くの駐車場にて集合、ストレッチをして出発しました。豆崎登山口から登って行くと、いきなり猛暑の後の伸び放題の藪漕ぎです。とくに今日は蒸し暑く、風もない曇天なのでよけいに暑苦しかった。生い茂った林の中には秋の印であるどんぐりが落ちていて、様々なキノコがもっさり出ている。“秋の風情”を醸しています。中でもチーズフロマージュのような真っ白いキノコは美味しそうだった。“今日はゆっくり歩きます”というリーダーの指針だったので、周りの景色を眺め、秋の気配を感じながら歩きます。

鷹の巣山をこえて桶居山分岐から細い踏み跡を辿って急坂を下ると、雑木が茂ってじめっとした鞍部に出る。数回のアップダウンを繰り返しながら進んで行くと時々桶居山頂が見える。稜線へ上がる処にプラ製階段があるが、分岐からここまで1人では心細い道だなと思った。眼下の裾野には射撃場があったように思うのだが、時代の流れか・・・今はソーラーパネルが並んでいる。プラ階段を上ると明るい稜線へ出る。少し歩いて鉄塔の処でお昼休憩となった。



1時少し前に桶居山へ向けて出発。桶を逆さに伏せたような、とんがった独特な山容の桶居山は遠くからでも良く分かる。リーダーのコース説明にあったように、かなりの斜度の岩山だ。

リーダーの采配で4人、4人、5人と少しずつ間をあけて小人数に分かれて登って行った。

安全を重視した配慮はさすがだなと感服する。岩山ではあるがキキョウの花はこの辺りで1番多く咲いていた。桶居山頂では萩が満開だった。しばし

展望を楽しみ、集合写真を撮ってから下山開始した。少し下った岩場でIさんが不調を申し出てしばらく休んでもらうことに・・・。

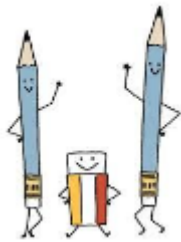
そして、ここから2班に分かれ別々に下山する事になった。丁度“スズメ蜂情報”の伝達の為に親切なWさんが登ってきた時だった。致し方ない事態に後ろ髪をひかれながらも私達は先に下山する。

桶居山の西側稜線も岩山で、ダルマおとしのような岩もあり、怖いスズメ蜂の巣もこえて、岩こえ岩こえやさしい岩陵歩きが楽しめる。稜線からはせつせと岩登りに通った山神社や御着の岩場も良く見える。低山なのに展望が良く、御着の街並みも箱庭のように見渡せた。時折り藪漕ぎしながら雑木林を下って竹林へ入ると間もなく御国野登山口に着いた。播但連絡道路を目印に進み、ゴールの御着駅で16時20分。サブリーダーが下山連絡を入れた時、あとに残

ったメンバーがゆっくり至近ルートを下山しているとの情報にほっとした。桶居山から山神社の岩場への道はアルパインルートと記されているだけにかかなり厳しいだろうと心配は尽きないが、あとのメンバーの健闘を願いながら各々帰路についた。ご一緒してくださった皆さん、ありがとうございました。Iさんもサポートに残った皆さんもおつかれさまでした。早く回復して、また一緒に山歩きを楽しみたいです。

※桶居山について

標高247.6m、3等三角点でおけいやまともおけすけやまとも呼ばれる。江戸時代後期の名所案内「播州名所巡覧図絵」巻三の四十五に「高座（高御位山）の西の山続きにて・・・桶居山ともいふ」と紹介されているようだ。また、江戸時代の地誌「播磨鑑」には「桶居（おけすえ）山」と記されているということだ。



高森ボランティア活動報告

報告者：澤田(律)

- 日 程：10月20日(土)
- 場 所：豆崎登山口～墓場分岐
- 参加者：上田 内海 澤田(律) 待場 三木(悦) 村上



今回は、豆崎登山口～墓場分岐までの区間を行った。特に登山口周辺は草が生い茂り、歩きにくい状況だった。この箇所を中心に草刈りを実施した。作業中にも4名の登山者に出会いました。また、草が伸びている場所以外は結構、人が歩いておられるのか登山道はしっかりついていました。

さらに、登山口の標識は文字色が、はげ気味だったのでペンキの塗り変えをMさんが実施。見やすい標識に戻りました。

みなさんも機会があればご利用ください。